

## 第26章 近代化と明治の日本

欧米列強の進出と条約改正の道のり

### 【列強と帝国主義】

欧米列強による進出

**帝国主義**: 原料や市場を求め、軍事力によって植民地を広げる動きや考え方

19世紀後半 欧米の列強はアジア・アフリカ・太平洋の島々に進出

→多くの地域が植民地として支配され、世界は列強によって分割される

### 【条約改正へ】

条約改正の流れ

年	交渉の内容など
1872年	<b>岩倉使節団</b> が改正の交渉を開始
1878年	アメリカとの関税自主権の交渉に成功 イギリスなどの反対により失敗
1882年～	欧化政策: 欧米の風習を取り入れる政策 井上馨が鹿鳴館を立てる
1886年	ノルマン統合事件
1894年	<b>領事裁判権(治外法権)</b> を撤廃 外務大臣: <b>陸奥宗光</b>
1911年	<b>関税自主権</b> を回復 外務大臣: <b>小村寿太郎</b>

## 【日清戦争】

### ① 日清戦争の背景

19世紀末の朝鮮では思い税金と凶作により人々が困窮



1894年 朝鮮半島で甲午農民戦争が起こる



朝鮮は鎮圧のために清に援軍を求めるが、日本も朝鮮に軍をおくり、朝鮮を狙う両軍が衝突

### ② 日清戦争勃発

1894年 日清戦争が起こる

近代化した軍備を整えた日本が勝利

### ③ 日清戦争の条約

1895年 下関条約

日本:伊藤博文・陸奥宗光

清国:李鴻章

内容:清は朝鮮の独立を認める

遼東半島・台湾・澎湖諸島を日本にゆずる

賠償金2億両(テール)←当時の日本円で約3.1億円

1895年 三国干渉:ロシアがフランス・ドイツとともに日本に遼東半島の返還を求める

日本は3000万両と引き換えに受け入れる



日本ではロシアへの不満が高まる「臥薪嘗胆」

### 【列強の中国進出】

1894年～95年の日清戦争の後、「眠れる獅子」の衰えを知った欧米列強は清に進出

→ロシアは日本が返還した遼東半島の旅順・大連を租借

### 【日清戦争後の日本】

#### ①日清戦争後の政策

日本は日清戦争の賠償金の大半を軍備の拡大・工業化などに使う

#### ②藩閥政府と政党の提携

1900年に伊藤博文が総裁となり、立憲政友会を結成

## 【日露戦争へ】

### ①清とロシア

1899年 清で義和団事件が起こる

翌年、清政府は列強に宣戦布告



日本・ロシア中心の連合軍により鎮圧



清は多額の賠償金を支払い、北京に外国軍隊の駐留を認めさせられる  
事変後もロシアが満州を占領

### ②日本とイギリスの関係

日本 : 大韓帝国を勢力範囲として確保したい

イギリス: 清での利権を確保したい



ロシアの南下政策を警戒し

1902年: 日英同盟を結び、日英で協力して対抗する

### ③戦争をめぐる世論

反戦論: 幸徳秋水・内村鑑三など

与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」



開戦論: 新聞・雑誌などの大多数の国民

## 【日露戦争】

### ①ロシアとの開戦

**1904年 日英同盟を背景に日露戦争**が起こる

東郷平八郎は日本海海戦でバルチック艦隊に勝利

↓

戦争を続けるのが難しくなる

日本 : 戦費・兵力・物資などが不足

ロシア: 皇帝の専制政治に対する国内の革命運動など

### ②日露戦争の終結

**1905年 ポーツマス条約**

日露戦争の講和条約がアメリカ大統領セオドア=ルーズベルトの仲介により結ばれる

内容: ロシアは大韓帝国における日本の優越を認める

旅順・大連の租借権・長春以南の鉄道の権利・北緯 50 度以南の樺太を日本にゆずる  
沿海州・カムチャッカ沿岸の漁業権を日本に認める

→賠償金が得られないことに不満をもった人々により、東京で日比谷焼き討ち事件が起こる

### ③日露戦争の影響

日本は列強としての地位を獲得→のちに条約改正を達成

アジア諸国への優越感を得る

軍備をさらに増強し、帝国主義国へ